

【認知症対応型共同生活介護用】

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月18日

【評価実施概要】

事業所番号	0770700649		
法人名	株式会社想健		
事業所名	グループホーム いにしえ		
所在地	福島県須賀川市下宿町 8 3 番地 (電 話) 0248-63-7414		
評価機関名	福島県社会福祉協議会		
所在地	福島県福島市渡利七社宮111		
訪問調査日	H20.3.18	評価確定日	H20.4.28

【情報提供票より】(20年 1月21日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤14人, 非常勤	人, 常勤換算 14人

(2) 建物概要

建物構造	木 造り		
	2 階建ての	1~2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	42,000		円	その他の経費（月額）	円	
敷金	有（		円）	無		
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（		円）	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	400	円	昼食	400	円
	夕食	400	円	おやつ	円	
	または1日当たり			円		

(4) 利用者の概要(1月 21日現在)

利用者人数		18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護 1		5	名	要介護 2	6	名
要介護 3		4	名	要介護 4	1	名
要介護 5		2	名	要支援 2		
年齢	平均	81 歳	最低	83 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	公立岩瀬病院、須賀川病院、池田記念病院、春日病院、矢部医院、佐藤心療内科、新妻歯科医院
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山茶花の生垣に囲まれたホ - ムには紅梅や枝垂桜が植えられ、古民家風の建物は周囲に溶けこんでいる。ホ - ムの中も和風の趣があり、ゆったりとした空間となっている。利用者の表情も明るく職員との関係も良い印象を受けた。地域との繋がりも良く、きめ細かな利用者本位の介護サービスをめざしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目: 外部4)
	介護計画への利用者・家族の意見の反映、利用者のペースの尊重等。評価結果を全体会議で周知し、話し合いを行い介護計画に関する項目、利用者の対応に関する項目について改善に取り組んだ。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目: 外部4)
重点項目	職員に自己評価用紙を配布して記入してもらい、管理者がまとめた。まとまった時点では全体での話し合いはしていない。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目: 外部4, 5)
重点項目	事故報告書を委員に見てもらい、一般の人の視点でアドバイスをもらったり、職員の挨拶の仕方について指摘してもらうなど、サービスの質の向上に活かしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 外部7, 8)
重点項目	面会の時や、家族がホ - ムの行事に参加する機会を設け、その都度家族より意見、不満、苦情などを聞くようにしている。出された意見、苦情等は、苦情意見シ - トを活用し職員で話し合い、ケアの見直しや対応に活かしている。
	日常生活における地域との連携(関連項目: 外部3)
重点項目	地域の秋祭りに参加したり、ホ - ムの夏祭りに地域の方々を招待したりしている。また、地域の老人会のクラブ活動(グランドゴルフやヨガ教室)に参加し、交流している。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成17年4月開設以来、運営理念に「地域との交流」を掲げ、近所との交流、町内会との関わりを深めてきている。地域密着型サービスに位置付けられたときに、特に意義等について話し合っていない。	○	地域密着型サービスとしての役割、いにしえとして何が求められ、何ができるのか等について職員全員で話し合い、再度確認してほしい。
2	2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念を踏まえ、ユニットごとの目標や、個人目標を掲げ日々業務に取り組んでいる。年度末に、それらを総括し、新年度の目標を作っている。	○	理念に沿ったケアサービスが提供されているか、利用者との関わりの振り返りの場を毎月持つようにしてほしい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の秋祭りに参加したり、地域の方々をホームの夏祭りに招待している。また、利用者が地域の老人会のクラブ活動(グランドゴルフやヨガ教室)に参加し、地域との交流をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価には、職員全員で取り組んだ。前回の外部評価結果は全体会議で周知し、介護計画に関する項目、利用者との対応に関する項目に関する改善に向け取り組んでいた。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2～3カ月に1回開催し、事故報告書を委員に見てもらい、一般の人の視点でアドバイスをしてもらったり、スタッフの挨拶の仕方についても指摘してもらうなど、サービスの質に向上に活かしている。		
6	9				
4.理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用料の請求書と一緒に「お預り金出納帳」、受領証を家族に送付している。いにしえ便りを年4回発行するとともに、居住担当者からのメッセージを添えて、利用者の暮らしぶりを家族等へ伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの行事に家族が参加する機会を年5回設け(そのうち1回は、家族会を併せて開催)、その中で家族の意見・要望を聞くようにしている。	○	家族会では、職員は席をはずして家族同士で話し合う時間をとるなど運営上の配慮をしてほしい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を作るため、異動は極力しないよう配慮している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修委員会で企画し、毎月1回社内勉強会を実施している。外部研修にも各ユニットから参加させるようにしている。研修報告書を各ユニットで回覧している。	○	全体の前で分かるように報告することは、研修内容を身につけることにもつながるので必ず報告する機会を持つようにしてほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡協議会に加入し、研修会、報告会などへ職員が参加し、同業者との交流の機会を作っている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護計画の中に、利用者の得意なことを活かし職員と利用者が1対1でコミュニケーションをとる時間をつくることを取り入れ、職員が本人から学ぶ機会を作っている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケース記録に、利用者の行動、言動・様子、利用者の気持ち、スタッフの気づき、対応等を記入し、一人ひとりの思いや意向を把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	認知症介護研究・研修東京センター方式シートの利用によるアセスメント(介護内容の評価)、本人・家族の意見、職員の意見を取り入れ、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプラン(介護計画)チェック表、介護経過表による観察・記録を行い、担当者による介護計画の評価等をもとに、会議を行い、担当者会議で家族の意向等を踏まえ、定期的な見直し、随時の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)			

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医を受診するほか、同意を得てホ－ムの協力医療機関をかかりつけ医として受診している。家族が同行できない場合は、職員が受診支援している。受診結果については家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに関する方針を定め、家族・医師・スタッフで話し合い、方針の共有を行っている。(この方針に基づき、平成19年に利用者をホ－ムで看取った)		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ユニット会議で、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応を徹底している。記録等の個人情報の取り扱いについても徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の準備などを利用者全員で行う場合、自立している利用者のペースになりがちなどに注意し、できるだけ利用者の気持ちを尊重し、個別の対応をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、調理、片付けは利用者と職員が一緒に行っている。職員も利用者と同じ食事を食べ、談笑しながら食事を楽しんでいる。週1回、利用者は食べたいメニューが希望できるなど利用者の好みにも配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴が可能で、主に午後入浴となっているが、夜間入浴の人もある。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	利用者一人ひとりが生活の中で、食事づくり、掃除、ごみ出しなど役割を果たすようにしている。月2回、職員のフリー勤務(業務としての役割がない)の日を設け、担当利用者と好きなところで外出できる機会を作っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	天候や本人の希望に応じて、日常的に買い物や散歩に出かけている。必要に応じて、車椅子を利用して外出を支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	見守りを基本として日中は鍵をかけていない。平成19年11月に職員の気づかぬうちに利用者が散歩に出かけてしまったことがあり、再発防止を徹底することとしたが、最近も2人が散歩に出かけてしまったことが起きた。	○	日常にごみ出しや洗濯干しで外に出る利用者があり、いつもの事だからという思い込みや慣れがあると思われるので、再度、再発防止を徹底してほしい。

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	消防署の協力を得て避難訓練、避難経路の確認、消火器の操作訓練などを定期的に行っている。	○	夜間想定避難訓練の実施、地域の人々への働きかけはあるが、協力体制の具体化を図ってほしい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一週を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェックしている。栄養委員会が栄養バランス、カロリーを考えた献立を作成している。	○	定期的に栄養士の指導をもらうようにしてほしい。
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い食堂と畳の間が圧迫感を感じさせずゆったりとした空間をつくっている。食堂、廊下には季節感のある飾りつけがされている。台所、浴室、トイレは清潔が保たれている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンス、鏡台、椅子など使い慣れたものが持ち込まれており、家族の写真なども飾られ落ち着いて過ごせるよう配慮されている。		

 は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム いにしえ

記入担当者名 水野 愛子

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目№を記入してから内容を記入してください。